

ISPEC2015 で光電子融合技術ロードマップを講演

ISPEC (International Symposium on Photonics and Electronics Convergence –Advanced Nanophotonics and Silicon Device Systems–) は、東京大学と技術研究組合光電子融合基盤技術研究所 (PETRA) が共催する国際会議であり、第 5 回となる今年度は 11 月 30 日 (月)～12 月 2 日 (水) の会期で、東京大学伊藤国際学術研究センターおよび駒場リサーチキャンパス ENEOS ホールにおいて開催された。本分野で世界を代表する海外研究者が参加し、光電子融合技術の将来方向について議論を深めた。オープニングセッションでは、東京大学の荒川泰彦教授をはじめ、カリフォルニア工科大学の A. Yariv 教授、カリフォルニア大学サンタバーバラ校の J. Bowers 教授と世界最高峰の研究者の基調講演が並び、一般講演では国内外の企業や大学・研究機関の開発成果が報告され、光電子融合技術の将来方向について議論を深めた。

光協会からは、小谷専務理事が招待講演において”Roadmap of Photonics and Electronics Integration Technologies”と題し、2030年に向けた光電子融合技術のロードマップを発表した。将来の社会像や光電子融合技術の市場動向、技術動向を踏まえて、今後の開発戦略を包括的に検討した成果に対して、会場からはエキサイティングなロードマップだとの反応があり、日本の本分野における戦略的活動の一端が発信された。本講演は、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託により、光協会と株式会社富士キメラ総研が策定した「光電子集積技術に関する開発動向及び技術ロードマップ2015」の成果に基づくものである。



ISPEC2015 における小谷専務理事の講演